

中世マンスフェルト伯領における ヘルフタ修道院

——カルテュレールに見る女子修道院と創設家門——

Helfta in the Medieval Mansfeld: The Relationship between
Female Monastery and Its Patron Based on *Codex Helfta*

三 浦 麻 美

要 旨

本稿は中世ザクセン、マンスフェルト伯領における修道院の史料を整理・分析し、伯と修道院の関係性に関する考察を通じ、13～16世紀の女子修道院と貴族家門の霊性を明らかにする。12世紀にドイツの貴族家門が所領と家修道院を中心に発展する中、遅れて13世紀に修道院を創設した伯はどのようにして家門の歴史を形成したのだろうか。『マンスフェルト伯領修道院証書集』の分析で判明した10修道院のうち、伯が創設したシトー会女子修道院であるヘルフタは特に頻繁な所領や貨幣の寄進を受けた。さらに、同修道院のカルテュレールを再現してヘルフタの歴史認識を明らかにし、修道女たちが寄進の対価として一族の故人のために捧げる祈禱をアイデンティティの中心に置いていたことを指摘する。この関係は伯家もしくはヘルフタが危機に陥るたびに更新され、修道院改革とヘルフタのベネディクト会への転属を超えて継続し、死者を中心とした霊性の1つのあり方を示している。

キーワード

修道院, ザクセン, Codex Helfta, 死者記念

1. はじめに

本稿は、中世ザクセン、マンスフェルト伯領における修道院の史料を整理・分析し、伯と修道院がどのように関係を維持したかを具体的に示し、中世後期の修道院における貴族家門との関係性が靈性に与えた影響を明らかにする。

10～15世紀頃のヨーロッパでキリスト教が果たした役割は、宗教的なものにとどまらない。ローマ教会の長として教皇は皇帝と政治闘争を繰り返す、同様の教会と世俗権力の衝突は各地で見られる。その他に、特定の戒律を守って共同生活を送る修道院が地域社会との密な交流を通じて経済的・社会的に大きな影響力を維持したことは、すでに多くの研究が明らかにしてきた¹⁾。ドイツでは11世紀頃に貴族家門が家領を基盤に領域支配を確立し始め、その中で修道院は一族の墓所として歴史を蓄積する役割を担った²⁾。

女子修道院も同様の役割を果たした。ザクセンでは、9世紀に貴族家門がクヴェトリンプルクのようなFrauenstifteを創設し、キリスト教婦依の自己認識を示すと共に帝国への統合を図った³⁾。このような貴族家門と女子修道院の関係は近年急速に解明されつつあるが、12世紀頃までが主な研究範囲となっている⁴⁾。

この研究の偏りは史料の少なさが一因である。男子修道院に比べると女子修道院は史料が少なく、特にドイツ北部は神秘主義文書や祈祷書に頼らざるをえない⁵⁾。そこで、本稿はまとまった史料が残るマンスフェルト伯領ヘルフタの聖マリア修道院（以下ヘルフタ修道院）に注目する。2で伯領にあった10修道院を概観してヘルフタの特徴を把握し、3でヘルフタのカルテュレールを詳しく取り上げる⁶⁾。これにより、中世盛期から後期にかけての女子修道院の実態の一端を明らかにしたい。

1-1. マンスフェルト伯領の歴史と問題点

マンスフェルト伯領はハルツ山地の近く、現ドイツのザクセン・アンハルト州にあった。「ザクセン」はカール大帝に征服されて神聖ローマ帝国の一部となったが、この語が指す地域は年代で大きく変わり、Blaschkeが中世ザクセンの歴史概説書で重視するのはマイセン辺境伯領から現在のポーランドにかけてである⁷⁾。しかし、マンスフェルト伯領があったのはマクデブルク大司教、ハルバーシュタット司教、マイセン辺境伯、ザクセン大公、テューリンゲン方伯らの所領と隣接した地域である。

一般に、伯領の全盛期はルターやキュリアクス・シュパンゲンベルクらが活躍した宗教改革以後とされるが、本稿はそれ以前の10～16世紀頃を対象とする。伯はザクセン最古の家門の1つとされ、皇帝に従った6世紀頃のザクセン人征服のサガが初出である⁸⁾。11世紀頃に領内で銀山が発見されたことから経済発展が始まり、1045年には皇帝ハイน์リヒ3世が都市アイスレーベンに造幣権を与えた。しかし、1229年にHoyer家の伯ブルクハルト1世が男性相続人を残さずに死去したため2人の娘が所領を分割相続し、うちゾフィアの夫だったクヴェアフルトのブルクハルトがクヴェアフルト・マンスフェルト家ブルクハルト1世としてマンスフェルト伯位を継承した。このブルクハルトは弟と共同で分割された伯領を購入し、1264年に伯領を以前の規模で復活させた。しかし再び所領は細分化され、家門内で争いが生じた。1420年にVorder, Mittel, Hinterの3系列に分裂し、宗教改革期には各系列がカトリックとプロテスタントに分かれ、16世紀半ばには実質的な統治権を失ったとされる⁹⁾。その後は衰退の傾向を辿り、大部分がプロイセン王国に組み込まれた。

伯領の歴史研究は戦争の影響で20世紀に空白が生じており、19世紀のGrößlerが現在まで基本文献となっている。ヘルフタ修道院を中心とする13世紀の宗教文化を宗教改革の先駆に位置づけるが、同名の院長や修道女

の混同が見られ、使用には注意が必要である¹⁰⁾。近年の研究には Seidel, Jankowski があるが、両者とも伯家の複雑な親族関係の整理を主な目的とし、伯家門の評価は未確立である¹¹⁾。

そこで、本稿は家門形成過程ではなく、支配領域にあった修道院との関係を通して伯を考察する。同様の手法は Wipler と Knape が論文集で採用している¹²⁾。これは、13世紀ヘルフタ修道院からルターと結婚した16世紀のカタリナ・ボラまでのマンスフェルト伯領に関わるシトー会修道女に注目し、伯領でのシトー会発展を Sittichenbach 修道院とヘルフタ修道院の建造物や農業、神学など多様な観点から考察する。しかし、本稿の焦点は伯領におけるヘルフタ修道院の位置づけにあるため、シトー会に限定することはない。『マンスフェルト伯領修道院証書集』（以下『証書集』）¹³⁾全体を見ることで、これまでまとめて論じられることのなかった中世マンスフェルト伯領の社会・宗教の状況を把握し、その特徴を明らかにしたい。

2. マンスフェルト伯領における修道院

2-1. 『証書集』の成立

本章は『証書集』に収録された10修道院の歴史と史料を概観し、修道院と伯の関わりを考察する。ここでは証書集の構成を紹介し、次節で各修道院を収録順に見る。

この証書集は1887年に Krühne が刊行し、中世のマンスフェルト伯領とハルバーシュタット周辺の修道院に関する重要な史料となっている。カルテュレールが入るのはヘルフタと Sittichenbach の2院であり、それ以外は Krühne がマクデブルクを中心に各地の文書館を調査し、未刊行のものを含む証書や年代記、教皇勅令など約740点を収集、抜粋して編纂した。修道院はアルファベット順に Gerbstedt, Hedersleben, Helfta, Holzzelle, Mansfeld, Rode, Sittichenbach, Walbeck, Wiederstedt, Wimmelburg と並べられ、各院

ごとに年代順の番号が振られる。

2-2. 各修道院の歴史と史料傾向

本節は『証書集』に沿って修道院を紹介し、後掲の表1にある史料状況を確認する。

① Gerbstedt 修道院

ヴェッティン家のマイセン辺境伯 Riedag とその姉妹 Eilsuit が985年頃創建した女子修道院で、Eilsuit が初代院長となった。初めはアウグスティヌス会則を採用したが、1118年にベネディクト会となった。辺境伯家の女性を受け入れて伯の墓所となったが、ヴェッティン家の支配が衰えた13世紀にマンスフェルト伯が保護者となった。12世紀には120名の修道女がおり、多くは地元の貴族家門出身だった。16世紀に改革を試みたが困窮して聖遺物を売却、院の質入れをしたが1574年に世俗化された¹⁴⁾。

『証書集』にあるのは創建証書から1592年まで157件の史料であり、時代が下るほど件数が増える。インノケンティウス2世からボニファティウス9世まで、計7人の教皇から保護を獲得した。16世紀が最多なのは、改革と財政難に関する文書のためである。

② Hedersleben

1253年にハッケボルの貴族アルプレヒトとルートヴィヒが創建したシトー会女子修道院である。ハルバーシュタットのザンクト・ヤコブ修道院の娘修道院だが、シトー会への正式の編入はない。修道女が11名と小規模で、14世紀からは財政が困窮し、改革運動やゲマインデとの係争で1810年に閉鎖された¹⁵⁾。

『証書集』にあるのは1212～1503年までの25件である。13、14世紀に多く、ハルバーシュタット司教やマンスフェルト伯の寄進、または寄進の確認が見られる。

③ ヘルフト (Helfta)

マンスフェルト伯ブルクハルト 1 世と妻エリーザベトが墓所とすべく 1229 年に創建したシトー会女子修道院である。13 世紀には神秘主義者を輩出し、富裕でもあった。この時期は 60 名程度の修道女がいたようで、多くは周辺の貴族家門出身だった¹⁶⁾。14 世紀半ばに焼失してアイスレーベン近郊に移転した後はノイ・ヘルフトと呼ばれる。1467/8 年にベネディクト会ブルスフェルト修族に加わり、Wimmelburg 修道院の保護下に入った。1525 年にドイツ農民戦争で焼失後に再建不可能となり、1545 年にそのまま閉鎖した¹⁷⁾。

『証書集』にあるのは 1229～1542 年までの 205 件である。各世紀の分布を見ると、14 世紀が最多で、徐々に減少した。14 世紀まではマンスフェルト伯、ハルバーシュタット司教関連が多いが、15 世紀はアイスレーベンの都市参事会や市民が多く見られる。

④ Holzzelle

『証書集』で最も早い 877 年に創建され、王ルートヴィヒ 3 世から保護を受けたが、詳しい状況は不明である。ベネディクト会女子修道院であり、1383 年にマンスフェルト伯を守護に選出し、保護下に入った。15 世紀末にブルスフェルト修族に加わった。1525 年に農民の蜂起で破壊され、1535 年に伯が世俗化した¹⁸⁾。

『証書集』に入るのは 877～1534 年までの 32 件の史料で、15 世紀が最多である。マクデブルク大司教による新院長選出の承認が多く残り、院長交代は判明するが、それ以上は不明である。

⑤ Mansfeld

12 世紀半ばに成立したベネディクト会男子修道院である。1158 年にブランデンブルク辺境伯アルブレヒト熊公が聖地巡礼の際、修道士を伴ったことから「ヨサファト」と呼ばれるようになった。マンスフェルト伯を守護とし、14 世紀には伯妃の墓所ともなった¹⁹⁾。この修道院については不明な

点が多いが、Krühne は農民戦争直後に伯が世俗化したとする²⁰⁾。

『証書集』に入るのは1042～1516年までの18件である。うち9件はシュパンゲンベルクが16世紀に著した年代記の抜粋であり、それ以外は14世紀以降の売買契約や伯家の死者への年祈祷の誓約を含む。

⑥ Rode

12世紀後半にクヴェアフルト伯がマクデブルクの聖母マリア修道院から招聘した修道士のために創建したプレモントレ会男子修道院である。14世紀にマイセン辺境伯が担保に入れると所有権の移転が増え、16世紀の改革導入で財の売却が始まり、1567年に伯が修道院自体を売却して閉鎖された²¹⁾。

『証書集』に入るのは1147年以降～1543年まで84件である。13、16世紀に史料が増加するが、マンスフェルト伯関連のものはない。多くは周辺修道院と交わした所領の売買契約である。

⑦ Sittichenbach

ヴァルケンリート修道院保護のもと、Esico von Bornstedeが1141年に創建したシトー会男子修道院である。近隣で銅が産出されたのに加え、皇帝や貴族の保護下で寄進により広大な所領を獲得した。13世紀には元ハルバーシュタット司教コンラトを受け入れ、紛争の調停や祭壇の聖別などを通じ地域社会に影響力をもった。14世紀にハルバーシュタット司教のフェーデに巻き込まれて以降は衰退し、1542年に閉鎖された²²⁾。

『証書集』に入るのは1141～1541年まで336件で最も多い。元司教コンラトがいた13世紀の件数が突出し、教皇をはじめ聖俗の高位者が見られる。

⑧ Walbeck

992年に創建された、オットー大帝妃アーデルハイトに由来するベネディクト会女子修道院である。クヴェトリンブルクと16世紀まで緊密な関係を保ったようだが、詳細は不明である。長くアルンシュタイン伯が守護だったが、14世紀にマンスフェルト伯に売却した。16世紀に衰退し、同世紀後

半に閉鎖された²³⁾。

『証書集』に入るのは992～1525年まで20件である。14世紀が最も多く、クヴェトリンブルク院長に服従を誓うなど、両者の関係が再確認されていた可能性がある²⁴⁾。

⑨ Wiederstedt

1223年にアルンシュタイン伯が設立した施療院を母体に、伯妃メヒティルトが1250年頃創設したアウグスティヌス隠修参事会女子修道院である²⁵⁾。アルンシュタイン、レーゲンシュタイン、ファルケンシュタイン伯らと関わりが深かったが、1387年にマンスフェルト伯へ売却された。1523年には16名の修道女がいたが、1550年までに世俗化、売却された。

『証書集』に入るのは1223～1543年まで87件である。13、14世紀が多く、その後減少に転じた。多くは世俗諸侯による所領の寄進だが、この院はドミニコ会士が多く証人に登場し、司牧面でのつながりをうかがわせる。

⑩ Wimmelburg

創建時期や創建者は不明だが、1121年にハルバーシュタット司教が移転を布告したベネディクト会修道院である。この移転にはマンスフェルト伯妃クリ스티ナが関与し、伯家との関係がうかがえる。代々の伯はハルバーシュタット司教により、この修道院の守護に任命され、祈禱盟約に加わった²⁶⁾。1491年にプルスフェルト修族に加わったが、1526年に世俗化された²⁷⁾。

『証書集』に入るのは1038～1524年まで111件である。12世紀はハルバーシュタットの教会会議で証人となり、14世紀に伯から寄進を多く受けて史料数が増加した。

2-3. マンスフェルト伯領修道院について

本節は『証書集』にある全修道院を概観し、マンスフェルト伯発給の証書数を算出した表2も参照しつつ、伯と諸修道院の関係を考察する。

最初に、『証書集』ではシトー会から転じたヘルフタを含めて半数以上の6院がベネディクト会に所属した。この地域における多くの修道院の存在は指摘されているが、いまだ全容は不明である²⁸⁾。研究者は時代が下るほどシトー会や托鉢修道会など新しい修道会を重視する傾向があり、13世紀に成立したHedersleben, ヘルフタ, Wiederstedtがいずれも非ベネディクト会だったのはグルントマンが指摘したような宗教性の転換を示す可能性がある。しかし、9世紀頃から宗教改革まで多くのベネディクト会修道院が存続して15世紀にブルスフェルト改革を導入した点は、伯領における多様な修道会共存の証であり、中世後期にかけての宗教性の評価に再考を迫るものである。

次に、表1で史料数の推移を見るとほぼ全てで13世紀に文書数が急増し、14世紀頃ピークを迎えた。多くの院で農民戦争により史料が失われた点を考慮する必要があるが、伯領における13, 14世紀の活発な経済活動を示す可能性がある。文書数は15世紀に減少し、16世紀に増加が見られるのは、修道院改革や財政難で負債返還の延期などを交渉する書面が残ったためである。

Gerbstedt, ヘルフタ, Sittichenbach, Wimmelburg では100件以上の史料が残る。このうち、ヘルフタとSittichenbachではカルテュレールが現存する。Gerbstedt, Wimmelburgで多い理由は不明だが、16世紀に襲撃の記録がないのは一因であろう。

表2は、マンスフェルト伯による証書の発給件数と各院の史料に占める割合である。全体の最高値である67%は15世紀のHederslebenの数値だが、この数字は史料数の少なさにあると考えられる。また、数値の低い院が伯と無関係とは一概に言い切れない。例えば、Mansfeldは伯妃の墓所だったが、『証書集』にあるのは修道院によるミサ執行の誓約であり、伯発給の証書に含まれない²⁹⁾。また、Sittichenbachは15, 16世紀に伯関連の証書の割

合が低いが、伯からの保護をザクセン大公らに求める書面から、伯と係争関係にあったとわかる³⁰⁾。

以上の点を考慮しつつ表2から明らかになるのは、マンスフェルト伯が13世紀から修道院に積極的に関与を始めたことである。多くの修道院で13、14世紀に数値が上昇したのは、伯が13世紀半ばのHoyer家からクヴェアフルト・マンスフェルト家へと系統が交代し、所領を拡大して、家門が確立したためと考えられる。Wiederstedtのみは15世紀に増加を始めたが、これは14世紀までドミニコ会の保護下にあつて伯の支配権と離れていたためだろう。数値から、伯と最も深い関係にあったのはWimmelburgとヘルフタと考えられる。両院とも伯家が創建に関わり、Wimmelburgがヘルフタの係争を調停するなど相互の関わりも認められる³¹⁾。15世紀にはブルスフェルト修族という共通点もあり、この伯領ではベネディクト会が存在したのみならず、伯にとっても重要だったことを示している。このうち、ヘルフタ修道院には特定の意図で編纂されたカルテュレールが残るため、次章ではこの院に注目する。

3. カルテュレールに見るヘルフタ修道院

3-1. ヘルフタ修道院関連の史料と研究動向

前章までで、マンスフェルト伯家とヘルフタ修道院の密な交流を指摘した。伯との関わりを論じる前に、ヘルフタ修道院に関する先行研究の成果を確認する必要がある。

現在判明しているヘルフタ修道院の歴史を改めてまとめる。ヘルフタは聖母マリアを守護聖人として、1229年にマンスフェルト伯ブルクハルト1世と妻エリーザベトにより伯の居城の隣に創建された。初代院長はハルバーシュタットのクニグンデだった。シトー会所属を称したが正式な編入はなく、ハルバーシュタット司教の管轄下でドミニコ会士らから霊的指導を

受けた。1234年にロダースドルフに移転し、1258年に水不足のためヘルフタへ移転した。1342年にはハルバーシュタット司教のフェーデに巻き込まれ、ブルンズウィックのアルベルトの襲撃で建物が焼失したため、1346年にマンスフェルト伯ブルクハルト7世がアイスレーベン近郊に寄進した土地に再建された。15世紀にはモラル低下が問題視され、周辺で修道院改革が進む中1467/8年にベネディクト会ブルスフェルト修族へ転じた。1525年に農民たちの襲撃を受けて焼失し、修道女たちは離散した。最後の院長Katharina von Watzdorf (1493-1534在任)は伯に再建を願ったが、そのまま閉鎖された。1992年に「修道院ヘルフタ友の会」が結成されて再建資金を募り、1999年にシトー会修道院が開設され、現在に至る³²⁾。

研究者の注目を集めてきたのは2代目院長ハッケボルンのゲルトルート³³⁾の在任期間(1251~91年)である。ゲルトルートはヘルフタの地に拠点を置くハッケボルンの貴族家門出身で、一族の他の女性たちも同じ院にいた。その時期にヘルフタはハッケボルンから大規模な所領の寄進を受けて財政基盤を築き、写本作成で収入を確保し、古典文学を含む文書館を設けた³³⁾。このような文化的基盤から神秘主義文学が生まれた。著者はベギンからヘルフタに入ったマクデブルクのメヒティルト(1207~82年)、院長ゲルトルート³⁴⁾の妹であるハッケボルンのメヒティルト(1241~99年)、そして中世で唯一「大」の敬称がつく女性ヘルフタのゲルトルート(1303年没)の3人である³⁴⁾。これらはいずれも、典礼や祈禱中の幻視でキリストやマリア、聖人、死者たちと邂逅した体験や会話の記録、編纂である。神学としては14世紀以降に流行したキリスト中心主義、聖心崇敬の先駆に位置づけられる。また、執筆に際しては上記の3人を複数の修道女が補佐したのが明らかであり、ジェンダーと知的活動の観点からも注目される³⁵⁾。

一方で証書史料への注目は低く、Größlerのみに依拠する時期が長く続いた。近年はOfeleinがハルバーシュタット司教区にあったシトー会の4女

子修道院（ザンクト・ヤコブ，ヘルフタ，Hedersleben, Adersleben）の証書，年代記史料の比較から各院の特徴を論じる。それによると，ヘルフタは貴族家門出身者が多い大規模な修道院で，神秘主義霊性とパトロンである伯への高い依存度が特徴だった。最後の点について，Ofelein は対象とする4院中ヘルフタのみが宗教改革期に閉鎖されたことを傍証とする³⁶⁾。伯の信仰が及ぼした社会的影響についてのこの指摘は一考に値するが，本章での焦点はヘルフタから見た伯にあり，次節ではこの点を具体的に見ていく。

3-2. ヘルフタ修道院カルテュレール（Codex Helfta）について

本節では、『証書集』の史料をカルテュレール（Codex Helfta）への収録の有無で分類し，カルテュレールを再現して構成，証書の内容からヘルフタ修道院にとってマンスフェルト伯がどのような意味を持っていたかを読み取る。

このカルテュレールはマクデブルク州立文書館所蔵の紙製写本で，Codex Helfta と呼ばれる。1521年以降に1人の人物が作成し，ザクセンヤボヘミアの教会の記録や年代記など6作品と合本されたものの第6番目となる。全89葉だが，頁番号から f. 38-46の12葉の欠落が判明している。黒インクで書かれ，一部ルブリークがある³⁷⁾。

『証書集』以前に使用された刊本は Moser, *Diplomatische und historische Belustigungen* 第2, 4巻であり，証書が年代順に並べ直されている³⁸⁾。つまり，ヘルフタの証書は16世紀にカルテュレールが作成され，18世紀に Moser がそれを年代順に並べ替えて修道院の歴史を再構築し，そこへ19世紀に Krühne が他の文書館にあった史料を追加，拡充した。シュバンゲンベルクの年代記はさらなる証書を含むが，大幅な書き直しのために参照されることはない³⁹⁾。

ここでは Krühne の注を参照し，可能な限り Codex Helfta オリジナルの

証書配列を再現した。その一覧が表3である。なお以下の記述では、Krühneによる年代順の証書番号を表記する場合は数字にNo.を付与する。これがないものはオリジナルの配列での順番を表す。

全体の構成について、Krühneはハッケボルンによる寄進の一部が年代順である他は特別な意図を見出していない⁴⁰⁾。しかし、表3を見ると年代、言語の面からf.401にある52番目の証書(No.1)を境に大きく2部に分けられる。前半は14~16世紀の証書が多く、俗語とラテン語が混在するのに対し、後半は全てがラテン語証書で13世紀のものが増える。そこで、各々を第1部、第2部として順に見る。

第1部はNo.169~No.179まで計51通の証書からなる。最も古いのは1277年の37番目(No.31)で、ハッケボルンが水車小屋をヘルフタに売却した契約である。一方、最も新しいのは1520年の29番目(No.183)であり、並びは時間順ではない。また発給者はマンスフェルト伯、都市アイスレーベンとその関係者、ヘルフタ修道院が冒頭部に集まっているが、その後Wimmelburg修道院、ハレ市民、その他騎士階層の人物らが登場する。宛先は、大半が「全キリスト教徒」である。言語は30番目(No.171)までが全て俗語で、51番目まではラテン語と混在するが、俗語の割合が多い。次に、証書の内容は多岐にわたり、所領や租税(Jahrzins)の譲渡と売却、貸与、契約の確認、死者の年祈祷などが含まれる。分類は契約内容に応じたものではない。そこで、ここではマンスフェルト伯が発給ないし受給した18通の証書から注目すべき点を2つ挙げる。

第一が、冒頭部に置かれた一連の証書である。1番目(No.169)で、1503年にマンスフェルト伯とその一族はヘルフタ修道院に対し、都市アイスレーベンからの収入のうち定額を年2回払う約束をした。2番目(No.143)で都市アイスレーベンは伯の指示により、ヘルフタへの支払いを約束した。この2通が表すのは修道院が伯から得る定期収入である。続く3、4番(No.

167, 168), 5, 6番 (No. 175, 176) の証書はそれぞれ同日に伯とヘルフタが発行し、伯家の修道院における死者への祈禱の確保を契約する。すなわち、これら6通は伯家とヘルフタが年祈禱と寄進を通じて16世紀まで結びついていたと示している。

第二が、34～36番 (No. 97, 96, 113) にある1340年代の証書である。この時期ヘルフタは旧修道院が焼失し、伯は新たな土地や財を寄進して再建に尽力した。この時期の伯ブルクハルト7世については不明な点が多いが、現在残る墓碑銘からヘルフタは聖人に準ずる扱いをしていたと判明している⁴¹⁾。第二の創建文書ともいえる No. 96で、伯は修道院に土地と水車小屋を寄進し、代わりに荘厳ミサで一族のための祈りと *praepositus* による貧者への施しを求めた⁴²⁾。前後に同時期の証書がまとめられたのは、ヘルフタにとって新時代の到来と見なされたためだろう。

このように、第1部は16世紀前半のヘルフタが安定した財政状態を保つための証書がまとまっており、伯家の死者のための祈りとその対価が財政と典礼の両方でもった大きな意味を示唆する。

第2部に移る。ここには1229年から1351年まで計72通の証書が入る。発給者はマンスフェルト伯が22通、ハッケボルンが28通である。後者の証書は13世紀に一族出身のゲルトルートが院長職にあった時期に最も多く、1342年頃にヘルフタの所領を全て売却した後は修道院との関係が絶えたようである⁴³⁾。その他にはハルバーシュタット司教やマクデブルク大司教ら高位聖職者や他修道院、地域の貴族の名もあるが、都市や市民は全くいない。全証書がラテン語で書かれているだけでなく、定型表現を多用し第1部より短い傾向にある。内容は土地もしくは十分の一税の寄進、譲渡が中心で金銭の授受はなく、領域支配と関連する。

第2部冒頭の52番目の証書 (No. 1) は創建証書である。そこで伯夫妻は「我々が寄付した現世での援助を通じ、この世で平安を保てば、[修道女た

ちは] 我々、我らの先祖と子孫たちにかわって聖なる書物に専念し、絶えることのない祈禱で神への敬虔への戸を叩くだろう」⁴⁴⁾ とし、伯家のための祈りを目的とした。同様の文言は第2部の他の証書でも繰り返される。

しかし、第2部の特徴は男子修道院発給の証書にある。ヘルスフェルト修道院が1274年に発行した61番 (No. 25) は、集めた税のうちヘルフタの50マンス分の十分の一税をヘルフタ修道院に支払い、ヘルフタ修道院はその代価としてロウを奉納する契約を結んでおり、ヘルスフェルト修道院による徴税の代行が読み取れる。また、徴税は Sittichenbach 修道院が1413年に発給した64番 (No. 129) にもあり、村落ヘルフタの十分の一税が Sittichenbach 修道院を通じてヘルフタ修道院に払われていたが、自らの権利を全て放棄しヘルフタ修道院に返還すると布告した。十分の一税の寄進は土地の寄進と並んで頻出し、修道女は禁域である院から出られないために徴税の代行は驚くべきことではない⁴⁵⁾。しかし、この2通の証書はヘルフタが院に近接する所領の徴税を特定の修道院に委託し、定期的な貨幣や物品の交換を通じて交流したことを示している。言い換えれば、Sittichenbach による徴税権の返還はシトー会ネットワークからの離脱であった。この前年、1412年に Wimmelburg 修道院が係争の調停で初めて登場した No. 128 は第1部48番に配されており、ヘルフタを監督する男子修道院の交代が徴税権委託の証書という形でカルテュレールに書き込まれたのである。

最後に、全体を通じたマンスフェルト伯の寄進を見る。伯は全33件の寄進を行ったが、内訳は伯自身による寄進が17件、残りの16件は仲介役で実質は臣下の騎士らの寄進である⁴⁶⁾。伯自身の寄進は創建直後の13世紀と再建期の14世紀後半に多く、ヘルフタの危機にあって土地や水車小屋などを譲渡して設備の充実と収入の確保を図った。一方、仲介となるものは13世紀後半に始まって15世紀初頭まで続いたが、市民が自ら金銭を寄付し始めると途絶えた。そして、カルテュレール冒頭の No. 169, 143 で見た通り、16

世紀には伯自身も定期金で寄進を行った。

ヘルフタ修道院のカルテュレルについてまとめる。本稿はヘルフタ修道院がマンスフェルト伯をどのように認識していたか知るため、カルテュレル本来の配列を再現して検討した。その結果、52番(No. 1)を境とする2部からなる構成を指摘した。第1部は伯家の寄進とそれに対応する死者の年祈禱、都市民らによる貨幣の寄進を主に俗語で記録し、第2部は創設初期の所領形成とその管理をラテン語で記録した。第1部に新しい年代のものが多く、カルテュレルは作成当時の修道院がもつ権利を確認する目的があったと考えられる。そこに第2部として重要な証書を加えて、伯が大規模な土地を寄進して院の発展に寄与し、ヘルスフェルト、Sittichenbach、Wimmelburg 各院とヘルフタが徴税権によりネットワークを形成した痕跡を読み取った。4ではこれらの指摘にもとづき、マンスフェルト伯領における修道院と伯の関係、そしてヘルフタ修道院の特徴をまとめる。

4. ま と め

本稿は中世ドイツ、マンスフェルト伯に注目して支配領域にあった修道院、特にシトー会ヘルフタ修道院(後にベネディクト会)との関わりを論じてきた。

ここで対象としたザクセンでは11～12世紀にかけて貴族の支配体制が転換し、所領形成と家修道院が重要となった。マンスフェルト伯領は小さかったが、鉾山の発見で経済力を蓄え、12世紀以降にこの潮流に乗ったと考えられる。『証書集』にある伯領内10修道院の証書を分析したところ、ほとんどで13世紀以降に伯と修道院の交流が以前より緊密になっていた。伯家の発展は周辺修道院への影響力拡大に現れたのである。

ヘルフタ修道院のその歴史全体を通じて伯家と強い関わりが確認できた。

そこで3ではヘルフタ修道院のカルテュレールを分析し、修道院の伯に対する認識を論じた。伯が発給した証書は39件と最多であり、寄進の形態が13、14世紀は土地、15世紀以降は貨幣に変化しても、ヘルフタで最重要のパトロンだったのは明らかである。中でも創建直後のブルクハルト1世、2世期と修道院再建期のブルクハルト7世期の証書が多い。一方、伯は一族の死者の魂を救済するために祈禱を求めた。No. 167ではヘルフタを「伯家の墓所」⁴⁷⁾と呼んだ。カルテュレールでミサに詳しい言及がある死者はNo. 175の伯妃 Barbaraのみだが、1511年の証書であることから「伯家の故人」を代表する最も新しい存在として選ばれた可能性がある。

カルテュレール以外の史料にも同様の認識が見られる。『証書集』No. 148は、1451年1月10日付けでヘルフタ院長だったシュトルベルクのゾフィアがザンクト・ヤコブ院長あてに自院の来歴を知らせた書簡である。ゾフィアは繁栄の理由に創設者、修道女の存在、修道規則、院長、そしてマンスフェルト伯一族を挙げた。その中で特に名前を挙げて称賛したのは創設者ブルクハルト1世とエリーザベトの夫妻とブルクハルト7世であり、ヘルフタへの埋葬を詳しく描写して紐帯を強調した⁴⁸⁾。

ヘルフタはドイツ北部で宗教的史料が残る唯一の女子修道院であり、その神秘主義霊性は14世紀のドイツ神秘主義の先駆けとして歴史、神学、文学の研究者の注目を集めてきた。本稿の指摘はその成果を否定するものではない。ヘルフタは修道院改革で徴税権の委託先を変更し、シトー会からベネディクト会へ転じた。しかし繰り返し指摘した通り、ヘルフタのアイデンティティは一貫して創設家門である伯家の死者への年祈禱であり続けた。本稿で論じたことから、カルテュレールは13世紀に始まった両者の関係を16世紀の視点から捉え直し、その重要性を再提示したのもといえる。

表1 マンスフェルト伯領修道院証書数

世紀	Gerbstedt	Hedersleben	Helfta	Holzelle	Mansfeld	Rode	Sittichenbach	Walbeck	Wiederstedt	Wimmelburg
9				1						
10				0				2		
11	3			0	1			0		1
12	19			4	0	11	15	2		21
13	21	10	52	3	5	27	122	4	28	12
14	35	11	77	6	9	12	53	9	28	44
15	23	3	45	10	2	11	80	0	16	25
16	56	1	29	8	1	23	66	3	14	8
計	157	25	205	32	18	84	336	20	86	111

Urkundenbuch より三浦が作成

表2 マンスフェルト伯発給数 (割合, %)

世紀	Gerbstedt	Hedersleben	Helfta	Holzelle	Mansfeld	Rode	Sittichenbach	Walbeck	Wiederstedt	Wimmelburg
9				0(0%)						
10				0(0%)				0(0%)		
11	0(0%)			0(0%)	0(0%)			0(0%)		0(0%)
12	0(0%)			0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)		0(0%)
13	1(5%)	4(40%)	16(31%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	7(6%)	0(0%)	1(4%)	1(8%)
14	5(14%)	7(16%)	18(23%)	2(33%)	1(11%)	0(0%)	3(6%)	1(11%)	0(0%)	17(37%)
15	1(4%)	2(67%)	12(27%)	1(10%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	2(13%)	6(24%)
16	10(18%)	0(0%)	8(28%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(33%)	3(21%)	3(38%)

Urkundenbuch より三浦が作成

表3 ヘルフト修道院カルテュレール

Kritiknr.	作成時	発行地	発行者	宛先	言語	内容	Codex.H.
1	1503年4月23日		マンズフェルト伯一族と関係者	ヘルフト修道院	俗語	改鑄の損害補填として、アイスレーベンからヘルフトに年2回150グデルデンの支払い	303
2	1439年1月18日		都市の守護 Claus Balhorn, 都市参事会の Tile Klutermann, Nickel Rüst, Hans Fust, Hans Kannengyszer, Heyne Voyth, Hans Dal, Heinrich Karle, Moritz Siverdes, アイスレーベンのゲマインデ	全キリスト教徒	俗語	マンズフェルト伯の指示により、ヘルフトへの毎年の支払いを約束	307
3	1498年7月27日		マンズフェルト伯 Vorlad	全キリスト教徒	俗語	親族記念の礼拝堂をヘルフトに寄進	310
4	1498年7月27日		ヘルフト修道院	マンズフェルト伯 Vorlad	俗語	167への同意	312
5	1511年3月14日		マンズフェルト伯 Ernst	全キリスト教徒	俗語	妻 Barbara の死後救済のため寄進	314
6	1511年3月14日		ヘルフト修道院長 Katharina, Praepositus Barthasar Langst	全キリスト教徒	俗語	175の誓約	316 f.
7	1498年5月13日		Schwarzburg 伯 Heinrich	全キリスト教徒	俗語	否認	317
8	1463年5月22日	デッサウ	Georg Fürst zu Anhalt	ヘルフト修道院	俗語	売却	320 ff.
9	1409年4月4日		マンズフェルト伯 Günter, Albrecht, Vorlad	全キリスト教徒	俗語	確認 (Simon Holzhauser によるヘルフトへの財売却)	325
10	1414年7月25日		アイスレーベン市民 Hans Aldenberg とその妻 Katharina	全キリスト教徒	俗語	ヘルフトにザンクト・ヤコブの Kellerin と praepositus に払っていた租税売却	327

11	125	1405年1月27日		Daniel Kutzze	全キリスト教徒	俗語	Bethmann Flasche とヘルフタに租税売却	329
12	134	1422年7月1日		Wimmelburg 修道院の人々	全キリスト教徒	俗語	アイスレーベン市民 Claus Pressbaum と妻 Margarethe によるヘルフタへの寄進確認	330
13	122	1399年2月25日		マンズフェルト伯 Günter, Albrecht, Vorlad	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに租税譲渡	332
14	124	1403年5月3日		Gebhard, Gebhard Thanne	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに租税売却	334
15	118	1393年9月29日		マンズフェルト伯 Günther	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに租税譲渡 (依頼)	337
16	121	1395年9月8日		マンズフェルト伯 Günther	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに租税譲渡 (依頼)	338
17	119	1394年2月2日		Henning Trostの息子 Heinrich, Jan, Busse	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに租税譲渡	339
18	141	1438年8月23日		マンズフェルト伯 Vorlad	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに土地所有を認める	340
19	116	1380年10月18日		アイスレーベンの Prepositus Heinrich	全キリスト教徒	俗語	売却の証人	342
20	151	1459年9月27日		ヘルフタ修道院長 Sophia, Margaretha Busse Kellerin, 修道院	全キリスト教徒	俗語	アイスレーベン市民 Hans Kelner がヘルフタに入る娘 Gertrud のために Garten と牧草地を譲渡	343
21	153	1463年2月24日		Wimmelburg 修道院長 Nicolaus	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタの修道女に租税売却	344
22	145	1444年7月13日		アイスレーベン市民 Thizko Schwetycz, 妻 Elsa	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタの修道女 Christina Gotze と院長 Sophie von Stolberg, prepositus Conrad Scharren に10グルデンの租税売却	345

23	164	1496年10月8日		Claus Koch, Hans von Schrappla	全キリスト教徒	俗語	アイスレーベンへのGarten賃貸について合意	346
24	155	1474年6月6日		ハレのRathmannen, Innungsmeister, Gemainde	全キリスト教徒	俗語	借用書の扱いをヘルフタに告知	354
25	156	1474年7月9日		ハレ市民Nicolaus Clopzig	全キリスト教徒	俗語	売却	358
26	137	1422年		ハレ市民Paul, Augustin	全キリスト教徒	俗語	Conrad von Hanszela とヘルフタの修道女Christine von Hanzelaに売却	360
27	132	1417年2月11日		Ciriacus Hedersleben	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに売却	362
28	131	1417年2月10日		Hans Lange	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに売却	364
29	183	1520年7月26日		アイスレーベン市民Georg Waldau, Margaretha	全キリスト教徒	俗語	修道院に租税売却(負債返却)	366
30	171	1506年11月10日		アイスレーベン市民Franz Meus	全キリスト教徒	俗語	売却	368
31	84	1330年6月24日		Mehringen 修道院長 Alexander, Elisabeth abbattissa, Walburgis proprissa	全キリスト教徒	ラテン	Sittichenbach 修道院長同意でヘルフタに土地売却	371
32	104	1346年6月29日		マンスフェルト伯Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに建物譲渡	371
33	106	1347年3月16日		Wimmelburg 修道院長 Heinrich	全キリスト教徒	ラテン	Wimmelburg 修道院がヘルフタに土地の対価を払う	372
34	97	1343年8月28日		マンスフェルト伯Burchard	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに土地譲渡	373
35	96	1343年4月22日		マンスフェルト伯Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタ炎上後の土地譲渡	375
36	113	1353年7月26日		マンスフェルト伯Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	Burchard によるヘルフタへの寄進の確認	378
37	31	1277年8月15日	ヘルフタ	Hakeborn のAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	水車小屋の売却	379
38	115	1376年3月3日		マンスフェルト伯Gebhart	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに財譲渡	379

39	48	1295年7月13日		QuerfertのGerhard, Gebhard	全キリスト教徒	ラテン	土地の譲渡	382
40	51	1300年6月15日	ヘルフタ	Sttichenbach 修道院長 Johannes, Hakeborn の Albrecht, マンスフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタと騎士 Johann Botterberg の調停	383
41	61	1307年7月31日		QuerfertのGebhard, Gebhard, Bruno	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに牧草地を譲渡	383
42	72	1314年7月1日		マンスフェルト伯Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	384
43	72	1313年		ヘルフタ修道院 (Praepositus Conrad, 院長Sophia)	Heinrich von Klein-Eisleben	ラテン	ヘルフタが土地貸与	385
44	70	1313年		ヘルフタ修道院 (Praepositus Conrad, 院長Sophia)	Gebhard Tamme	ラテン	ヘルフタが土地貸与	386
45	120	1395年5月1日		アイスレーベンの都市参事会	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに家畜の放牧地譲渡 に対する補償	388
46	117	1383年6月5日		マンスフェルト伯Busse, Günter, Gebhard, Albrecht, Vorlad	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタに牧草地と土地譲渡	389
47	126	1407年9月15日		マンスフェルト伯Günter, Albrecht, Vorlad	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタにブドウ畑売却	392
48	128	1412年8月16日		Wimmelburg 修道院長Erhard, マンスフェルト修道院 prior Petrus, アイスレーベンのザン クト・アンドレアス、ザンク ト・ペーターの教区司祭	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタとアイスレーベンの カタリナ施療院間の紛争調停	394
49	140	1435年8月10日		マンスフェルト伯Vorlad	全キリスト教徒	俗語	ヘルフタとカタリナ施療院の 紛争調停。徴税権はヘルフタ に帰属	395 ff.

50	138	1429年4月25日		Dietrich Müller, 妻 Else, 息子 Claus	全キリスト教徒	俗語	祈禱の代わりにヘルフタに寄進	398
51	179	1515年1月31日		アイスレーベン施療院代表 Albrecht Schneider, Georg Waldau	ヘルフタ修道院	俗語	地代としてロウ奉納の約束	398
52	1	1229年		マンスフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	創建証書	401
53	2	1230年		マンスフェルト伯妃 Elisabeth	全キリスト教徒	ラテン	Burchard 死後の寄進	402/405
54	10	1267年1月15日	ヘルスフェルト	マンスフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルスフェルト大修道院長にヘルフタの土地を寄進	406
55	11	1267年1月15日	ヘルスフェルト	ヘルスフェルト大修道院長 Heinrich, 司祭 Ditmarus	全キリスト教徒	ラテン	ヘルスフェルトからヘルフタに土地を譲渡	407
56	13	1267年2月10日	マンスフェルト城	マンスフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタへの土地売却	408
57	14	1267年2月10日	マンスフェルト城	マンスフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタへの土地売却	408
58	15	1267年5月1日(?)	ヘルフタ	マンスフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタへの土地売却	409
59	16	1267年5月1日(?)		Burchardus de Schrapelo (マンスフェルト伯の兄弟)	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに売却された土地への権利放棄	410
60	24	1273年5月1日		マンスフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	十分の一税の売却	411
61	25	1274年2月28日	ヘルスフェルト	ヘルスフェルト修道院 (院長 Heinrich, decanus Heinrich, major praepositus Ludwig)	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに税収の一部を譲渡。その対価	411
62	26	1274年11月12日	ヘルフタ	マンスフェルト伯 Gebhard, Burchard	全キリスト教徒	ラテン	先代伯 Burchard による寄進の確認	412

63	39	1288年3月12日	マンズフエルト城	マンズフエルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	徴税権の譲渡	413
64	129	1413年8月5日		Sittichenbach 修道院	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに徴税権を回復	414
65	3	ca. 1255年		Hakeborn の Albrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	Albertus, Ludewicus de Hakeborn による寄進	417
66	30	1276年11月29日	ヘルフタ	Hakeborn の Albrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	寄進の確認	417
67	34	1280年11月	Burg Helfta	Hakeborn の Albrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	修道院に土地を譲渡	417
68	35	1287年7月4日	ヘルフタ	Hakeborn の Albrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	修道院に水車小屋と土地を売却	418
69	49	1296年3月28日	ヘルフタ	Hakeborn の大 Albrecht, Ludwig, 小 Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	土地の譲渡	419
70	36	1287年11月30日	ヘルフタ	Hakeborn の Albrecht, Ludwig, Albrecht (若)	全キリスト教徒	ラテン	修道院に土地を売却と寄進	419
71	53	1301年6月26日		Hakeborn の大 Albrecht, 小 Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	土地の譲渡	421
72	54	1301年9月24日	ヘルフタ	ヘルフタ修道院 (Praepositus Conrad, 院長 Sophia)	書簡を読む人々に	ラテン	守護 Conrad による土地購入確認	422
73	58	1305年4月20日	ヘルフタ	Hakeborn の Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに関する権利の放棄	422
74	60	1306年		Hakeborn の Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	423
75	64	1309年7月6日		Hakeborn の Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタへの要求権放棄と保護の義務の確認	424
76	73	1314年9月9日		Hakeborn の Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地贈与	424
77	82	1323年12月27日	ヘルフタ	Hakeborn の Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地売却	425
78	83	1327年4月14日		Hakeborn の Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	425
79	86	1333年9月19日		Hakeborn の小 Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	426

80	87	1333年5月25日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	426
81	89	1338年3月22日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	427
82	90	1338年4月4日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	427
83	91	1339年2月14日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	428
84	92	1339年2月16日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	428
85	94	1340年9月20日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	429
86	95	1342年8月25日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	429
87	98	1343年10月31日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地売却	430
88	99	1344年1月13日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタ土地譲渡	430
89	100	1345年6月24日		HakebornのAlbrecht, Ludwig, Burg Helftaの諸侯	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地売却	431
90	101	1346年1月5日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに財譲渡	431
91	5	1262年2月7日	マクデアブルク	マクデアブルク大司教Ruprecht	全キリスト教徒	ラテン	修道院が立っている土地を修道院に譲渡	432
92	103	1346年2月10日		HakebornのAlbrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに牧草地を譲渡	432
93	21	1272年4月6日		マンズフェルト伯Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタへの土地譲渡	434
94	22	1272年8月1日		マンズフェルト伯Burchard	全キリスト教徒	ラテン	財の保証	434
95	27	1274年		マンズフェルト伯Gebhard, Burchard	全キリスト教徒	ラテン	寄進の確認	435
96	29	1276年6月16日	ナウムブルク	ナウムブルク司教Meynerus	全キリスト教徒	ラテン	財の確認	436
97	37	1288年1月25日	マンズフェルト城	マンズフェルト伯Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタの守護保証(代替わり後?)	438
98	38	1288年1月25日	Schraplau	SchraplauのBurchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタの支配権の保証	438
99	40	1289年		ArnsteinのWalter Herr	全キリスト教徒	ラテン	土地の譲渡	439

100	43	1291年5月12日	ハレ	マクデブルク大司教 Erich	全キリスト教徒	ラテン	土地の譲渡	439
101	44	1291年6月11日		マンズフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	土地の譲渡	440
102	45	1292年7月13日	マクデブルク	マクデブルク大司教 Erich	全キリスト教徒	ラテン	土地の譲渡	441
103	56	1305年2月1日		Falkentein 伯 Otto, Volrad	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地売却	443
104	59	1305年4月29日	マンズフェルト	マンズフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	443
105	62	1307年	Hettstedt	Falkentein 伯 Otto, Volrad	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	444
106	63	1308年2月22日		マンズフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	445
107	65	1310年3月14日		ヘルフタ修道院 (Praepositus Conrad, 院長 Sophia)	全キリスト教徒	ラテン	司祭 Heinrich がヘルフタから土地を貸与 (生存の間)	446
108	67	1313年2月1日		マンズフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地贈与	446
109	68	1313年4月23日		マンズフェルト伯 Guntherus?	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地贈与	447
110	69	1313年		ヘルフタ修道院 (Praepositus Conrad, 院長 Sophia)	全キリスト教徒	ラテン	Heynricus Schele による所領の寄進と修道院による金銭提供	447
111	74	1315年4月13日		Querfert の Gerhard, Bruno	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	448
112	76	1316年11月28日		Querfert の Gerhard, Bruno 兄弟と息子の Gebhard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	449
113	85	1330年11月8日		advocatus (Vogt) Hermann, Werner	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地贈与	449
114	88	1333年10月21日		Aschersleben の Tydericus prepositus, Elizabeth abbatisa	全キリスト教徒	ラテン	Aschersleben 修道院がヘルフタに土地売却	450
115	102	1346年1月25日		マンズフェルト伯家の Burchard, Siegfried, Otto	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに Volkstedt の財譲渡	450
116	111	1351年2月22日		マンズフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフタに土地譲渡	451

117	28	S. d. (1275)		マンスフェルト伯 Gebhard, Burchard	全キリスト教徒	ラテン	財の確認	451
118	75	1315年		Gatterleben の Erich	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフトに土地譲渡	452
119	114	1354年9月21日		マンスフェルト伯 Burchard	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフトに土地譲渡	452
120	55	1302年6月24日	ライプツィヒ	Theodoric junior Thuringie lanthgravius orientalis et Lusatie marchio	全キリスト教徒	ラテン	土地譲渡	453
121	78	1318年2月3日		Hakeborn の Albrecht	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフトに土地譲渡	454
122	52	1300年6月24日	ハルバーシュタット	ハルバーシュタット司教ヘルマン	全キリスト教徒	ラテン	開拓地の徴税権をヘルフトに付託	455
123	93	1340年4月4日		Hakeborn の Albrecht, Ludwig	全キリスト教徒	ラテン	ヘルフトに土地譲渡	なし

Urkundenbuch より三浦が作成

注

- 1) 新しい研究としては、杉崎泰一郎『修道院の歴史：聖アントニオスからイエズス会まで』創元社、2015年。
- 2) 成瀬治、山田欣吾、木村靖二編『世界歴史大系 ドイツ史 1』、山川出版社、1997年、168-9頁。
- 3) W. Kohl, Bemerkungen zur Typologie der Frauenkloster des 9. Jahrhunderts im westlichen Sachsen, in: *Max-Planck-Institut* 1980, 112-39.
- 4) G. Mervill, A. Müller (eds.), *Female 'vita religiosa' between Late Antiquity and the High Middle Ages: Structures, Developments and Spatial Contexts* (Vita Reglaris, 47), Berlin 2011.
- 5) E. Andersen, H. Lähnemann, A. Simon (eds.), *A Companion to Mysticism and Devotion in Northern Germany in the Late Middle Ages* (Brill's Companions to the Christian Tradition, vol. 44), Leiden, Boston 2014.
- 6) カルテュレールとは「修道院や司教区教会が、自らの保有する諸権利を証拠立てる文書をまとめる慣習」にもとづいて作成したもので、「たんなる経済的意図以外に、当該教会の沿革を明らかにし正統性を主張する目的があった」。高山博、池上俊一編『西洋中世学入門』東京大学出版会、2005年、300頁。
- 7) K. Blaschke, *Geschichte Sachsens im Mittelalter*, München 1990.
- 8) R. Seidel, *Die Grafen von Mansfeld: Geschichte und Geschichten eines deutschen Adelsgeschlechts*, Egelsbach, Frankfurt am Main, München, Bremen, New York, 1998.
- 9) L. Berndorff, *Die Prediger der Grafschaft Mansfeld: Eine Untersuchung zum geistlichen Sonderbewusstsein in der zweiten Hälfte des 16. Jahrhunderts*, Potsdam 2011, 30-8.
- 10) H. Grössler, Die Blütezeit des Klosters Helfta bei Eisleben, in: *Jahres-Bericht über das königliche Gymnasium zu Eisleben*, Easter 1886-1887, 1-38.
- 11) Seidel, *op.cit.*; G. Jankowski, *Mansfeld: Gebiet – Geschlecht – Geschichte: Zur Familiengeschichte der Grafen von Mansfeld*, Luxemburg 2005.
- 12) E. P. Wipler, R.-M. Knappe (hgs.), *Bete und Arbeit! Zisterzienser in der Grafschaft Mansfeld*, Halle an der Saale, 1998.
- 13) *Urkundenbuch der Kloster der Grafschaft Mansfeld* (Geschichtesquellen der Provinz Sachsen und angrenzender Gebiete Bd. 20), M. Krühne, (hg.), Halle 1888.
- 14) http://femmodata.uni-goettingen.de/database.html?state=monastery_
- 15) *Geschichtliche Nachrichten über das Kloster S. Gertrudis und die Gemeinde zu*

- Hedersleben*, H. Dümpling, (hg.), Hedersleben 1895; http://femmodata.uni-goettingen.de/database.html?state=monastery_.
- 16) M. Bangert, Die sozio-kulturelle Situation des Klosters St. Maria in Helfta, in: M. Bangert, H. Keul (hgs.), “*Vor dir steht die leere Schale meiner Sehnsucht*”: *Die Mystik der Frauen von Helfta*, Leipzig 1998, 33.
- 17) C. Oefelein, *Das Nonnenkloster St. Jacobi und seine Tochterklöster im Bistum Halberstadt* (Studien zur Geschichte, Kunst und Kultur der Zisterzienser, Bd. 20), Berlin 2004.
- 18) http://femmodata.uni-goettingen.de/database.html?state=monastery_
- 19) G. Wartenberg, Die Manfelder Grafen und die Klöster im Mansfelder Land, in: Wipler, Knape, *op.cit.*, 63.
- 20) *Urkundenbuch*, XI.
- 21) Wartenberg, *op.cit.*, 62-3.
- 22) E. P. Wipler, Bete und Arbeite! Zisterzienser in der Grafschaft Mansfeld, in: Wipler, Knape, *op.cit.*, 34-9.
- 23) Wartenberg, *op.cit.*, 60-1.
- 24) *Urkundenbuch*, 544-5.
- 25) Krühne はドミニコ会とするが⁵, ここでは新しい知見に従う。Wartenberg, *op.cit.*, 66-6; http://femmodata.uni-goettingen.de/database.html?state=monastery_
- 26) Wartenberg, *op.cit.*, 61-2.
- 27) *Urkundenbuch*, X-XI.
- 28) H. Grundmann, *Religiöse Bewegungen im Mittelalter. Untersuchung über die geistlichen Zusammenhänge zwischen der Ketzerei, den Bettelorden und der religiösen Frauenbewegung im 12. und 13. Jahrhundert und über die geschichtlichen Grundlagen der deutschen Mystik*, Darmstadt 1970 (3. Aufl.), 1. Aufl. Berlin 1935はドミニコ会, G. Schlegel, (hg.), *Repertorium der Zisterzen in den Ländern Brandenburg, Mecklenburg-Vorpommern, Sachsen, Sachsen-Anhalt und Thüringen*, Langwaden 1998 はシトー会修道院の多さをそれぞれ指摘する。
- 29) *Urkundenbuch*, 325.
- 30) *Urkundenbuch*, 469-98 (No. 175, 176, 181b, 230).
- 31) *Urkundenbuch*, 206-7 (No. 128), 221-2 (No. 146).
- 32) F. J. Finnegan, *The Woman of Helfta: Scholars and Mystics*, Athens, 1962 (rep. 1991); Oefelein, *op.cit.*

- 33) C. J. Cyrus, *The Scribes for Women's Convents in Late Medieval Germany*, Toronto, Buffalo, London, 2009.
- 34) マクデブルクのメヒティルト : *Das fließende Licht der Gottheit*, G. Vollmann-Profe, (hg.), Frankfurt 2003 ; 『神性の流れる光』 (植田兼義訳), キリスト教神秘主義著作集 4/ I 中世の女性神秘家 I, 教文館, 1996年。ハッケボルのメヒティルト : *Liber specialis gratiae*, in: *Revelationes Gertrudianae ac Mechtildiana*, H. Oudin, L. Paquelin (eds.), 2 vols., Paris 1875-7; *The Book of Special Grace*, B. Newman, (ed. and trans.), New York 2017。ヘルフタのゲルトルート : *Oeuvres Spirituelles* (Sources chrétiennes 127, 139, 143, 255, 331), P. Doyère, (ed.), Paris 1967-86; *Exercitia spiritualia: Geistliche Übungen, Lateinisch und Deutsch*, S. Ringler., (hg.), Hamberg 2001.
- 35) A. Minnis, R. Voaden (eds.), *Medieval Holy Women in the Christian Tradition*, c. 1100 - c. 1500 (Brepols Essays in European Culture, vol. 1), Turnhout 2010 参照。
- 36) Oefelein, *op. cit.*
- 37) *Urkundenbuch*, XX-XXI. 合本されているのは以下の通り。
- 38) *Diplomatische und historische Belustigungen*, von Moser, F. C. (hg.), 7 Bde., Frankfurt am Main, Leipzig 1753-1764.
- 39) *Mansfelder Chronica. Der dritte Teil. Stammbaum und Geschlecht Register der Wolgeborenen und Edeln Herrn und Graffen zu Mansfelt*, C. Spangenberg, R. Leers, (hgs.), Eisleben 1912.
- 40) *Urkundenbuch*, XX.
- 41) A. Laabs, Das Jahrgedächtnis für Burkhard VII. von Mansfeld (1353) und die Totenfürsorge im Zisterzienserorden, in: Wipler, Knape, *op.cit.*, 73-4.
- 42) *Urkundenbuch*, 181.
- 43) A. Berg, Die Herrn von Hackeborn, in: *Genealogie und Heraldik. Zeitschrift für Familiengeschichtsforschung und Wappenwesen* 2, 1950, 66-70.
- 44) *Urkundenbuch*, 129. "ut per temporale subsidium a nobis collatum temporaliter sustentate ocio sancto libere vacantes pro nobis et progenitoribus nostris et successoribus sine intermissione precibus pulsant divine ianuam pietatis."
- 45) Rösner, W. Household and Prayer: Medieval Convents as Economic Entities, in: J. F. Hamberger, S. Marti (eds.), *Crown and Veil: Female Monastism from the Fifth to the Fifteenth Centuries*, New York 2008, 245-58.
- 46) 伯自身による : No. 1, 2, 10, 13, 15, 21, 27, 63, 96, 97, 111, 113, 114, 115, 167,

169, 175。伯が^s仲介 : No. 22, 28, 39, 44, 59, 67, 68, 72, 102, 104, 117, 118, 121, 122, 127, 152。

47) *Urkundenbuch*, 237. 'daz begrebnisz der herschaft ist'.

48) *Urkundenbuch*, 223-6.

